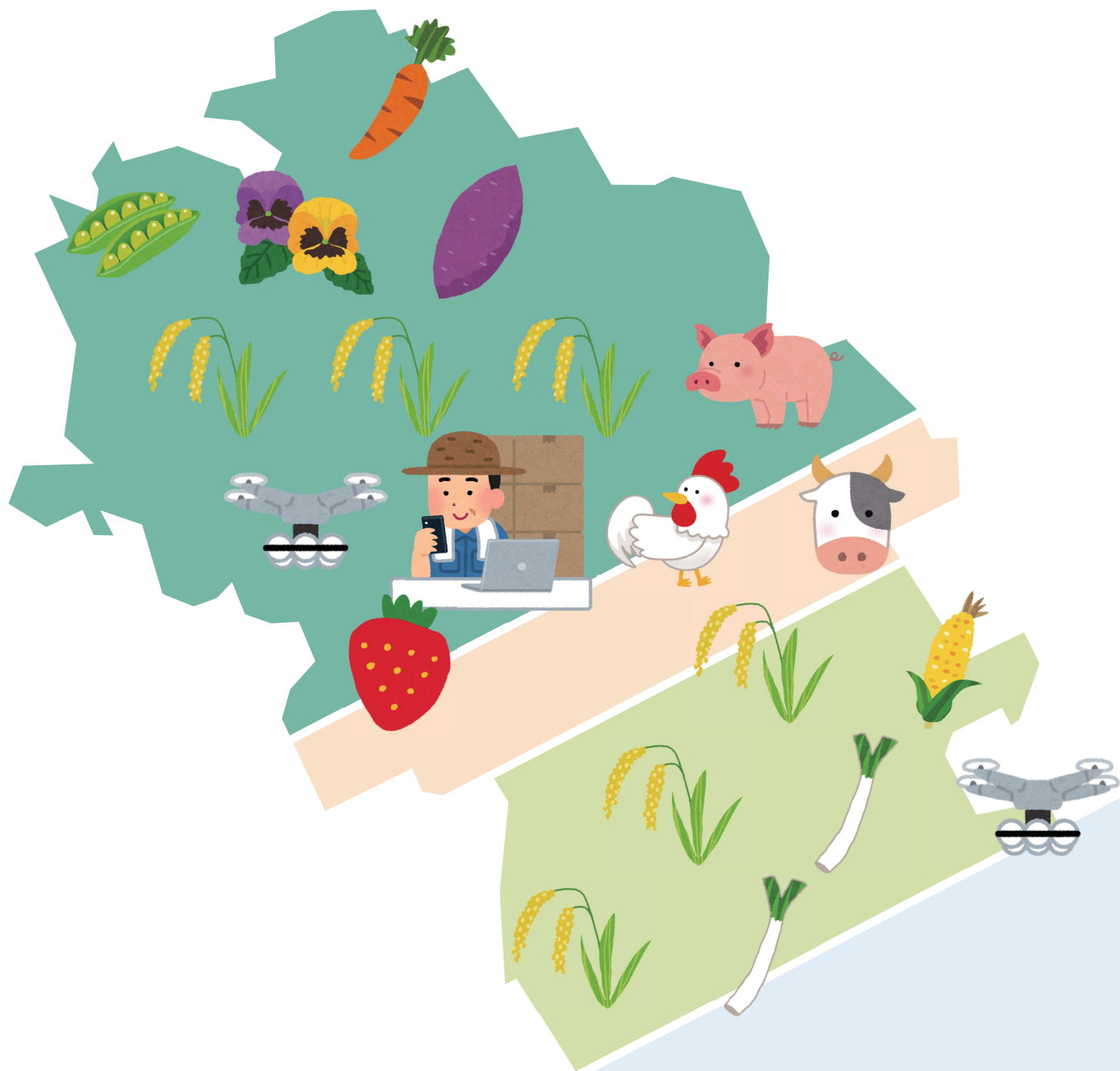


山武市 農業構想



令和 7 年 3 月
山武市

ごあいさつ

このたび、市の基幹産業である農業の持続的な発展を目指すため、20年後の将来を見据えた方向性を示す中長期的なビジョンとして、「山武市農業構想」を策定いたしました。

自然豊かで温暖な気候に恵まれ、また都心に近い立地条件を活かし、本市の農業は、稲作を中心にネギやニンジンなどの露地野菜、イチゴ、トマト、キュウリなどの施設野菜の生産が盛んに行われています。このほか、果樹や花き、畜産経営が行われるなど、生産物の多様性は本市の農業の強みとなっています。

一方で、これまで農業を支えてきた農業者の高齢化や担い手の減少、近年の気候変動や不安定な世界情勢を起因とした資材等の高騰など農業を取り巻く状況は、決して明るいものとは言えません。しかし、「食」は生活の根幹であり、それを守ることができるのが農業です。

そこで、本構想では、先人から大切に受け継がれてきた本市の魅力ある農業を次の世代に、より強固で未来ある産業として確実に引き継ぐことが重要であると考え、『強い農業』、『広がりのある農業』、『みんなで支える農業』の3つを目標に掲げ、その実現に向け取り組んでいくこととしています。

これから、この目標とする3つの農業を実現するため、農業者をはじめ、関係機関や関係団体、そして市民の皆様をはじめ様々な方々と連携しながら計画的に各施策・取組を推進してまいりますので、多くの方々のご協力をお願いいたします。

令和7年3月

山武市長 松下 浩 明



—目次—

はじめに	1
1 目的	1
2 位置づけ	1
3 計画期間	1
4 山武市の目指す農業の目標	2
第1章 農業の現状、課題	3
1－1 日本の農業の現状、課題、今後の方向	3
1. 日本の農業の現状と課題	3
2. 日本の農業の今後の方向	7
1－2 山武市農業の現状、課題	12
1. 特徴	12
2. 近年の動向	15
3. 地区別の状況	27
4. 山武市の農業の強み・弱み、可能性・脅威	32
5. 課題	35
第2章 基本方針・エリア別方針と実行施策	37
2－1 基本方針	37
2－2 エリア別方針	38
2－3 基本方針と実行施策	39
基本方針1：耕作放棄地に対する対策、農地の保全	40
基本方針2：担い手の確保、育成と新規就農者への支援	41
基本方針3：職業として魅力ある農業の確立（営農の効率化、収益性の向上）	43
基本方針4：山武市の農業のブランド化と PR	45
基本方針5：持続可能な農業への理解・協力	47
第3章 やるべきこと、目指すべきことの数値化、目標数値	48
第4章 構想実現に対する各主体の役割	49

はじめに

1 目的

本構想は、山武市の基幹産業である農業のおおむね 20 年後の将来を見据え、山武市の農業の持続的な維持・発展に向けた目標を設定するとともに、その目標の実現に向けた方向性を示していきます。

2 位置づけ

本構想は、山武市総合計画に即するもので、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」などの関連計画と整合・調整を図っています。

3 計画期間

令和 7 年度を始期とし、令和 26 年度までの 20 年を計画期間とします。

計画期間中の農業を取り巻く環境や社会情勢を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

4 山武市の目指す農業の目標

時代の転換期を迎える中で、将来にわたり安定的かつ良好な形で農業を維持していくためには、農業所得の向上とともに、個々の農業者だけでなく多様な人々を巻き込んだ、農業を支える新たな仕組みを構築していく必要があります。山武市では、

“強い農業” “広がりのある農業” “みんなで支える農業”

を目標に、持続可能な農業の実現に向けた取組を進めていきます。

“強い農業” とは ？

- 農畜産物の高品質・高付加価値化、低コスト化及び食品流通の効率化・合理化などの実現により、農業としての総合的な強さをもつこと
- 担い手の減少、気候変動、自然災害の激甚化・頻発化等の想定される変化に対し、柔軟に対応できるしなやかさをもつこと

“広がりのある農業” とは ？

- サービス産業との連携、食品加工産業等の連携など、1次産業としての農業に留まらない“産業”としての広がりをもつこと
- 家族労働を中心とした農業経営から、法人化による農業経営、多様な地域の農業者による協力体制の構築など、“農業経営”としての広がりをもつこと
- 農業を本業とする人々に限らず、副業的に農業を営む人々、農業に興味・関心をもつ非農業者の人々なども巻き込んだ、農業への“関わり方”としての広がりをもつこと

“みんなで支える農業” とは ？

- 山武市民を中心に、農業とともに育まれてきた山武市の文化・風土・風景等への理解を通じ、農業者だけでなくみんなで農業を支えていこうという意識が浸透していること